



## DLT コマンド

この章では、Cisco ONS 15454、ONS 15327、ONS 15310-CL、ONS 15310-MA、および ONS 15600 の delete (DLT) コマンドについて説明します。

### 10.1 DLT-<MOD1PAYLOAD>

(Cisco ONS 15454、ONS 15310-CL、ONS 15310-MA、ONS 15600) Delete 10GFC、10GIGE、1GFC、1GFICON、1GISC3、2GFC、2GFICON、2GISC3、4GFC、4GFICON、D1VIDEO、DV6000、EC1、ESCON、ETRCLO、GIGE、HDTV、ISC3PEER1G、ISC3PEER2G、ISC3PEER2R、ISCCOMPAT、OC12、OC192、OC3、OC48、または T3 (DLT-<MOD1PAYLOAD>) コマンドは、指定したポートを削除します。

**使用上のガイドライン** プラットフォーム別にサポートされる修飾子については、[表 27-1 \(p.27-1\)](#) を参照してください。



**(注)** このコマンドは、ASAP カード、15310-CL-CTX カード、FC\_MR-4 カード、ONS 15454 Dense Wavelength Division Multiplexing (DWDM; 高密度波長分割多重) カードなど、Pluggable Port Module (PPM; 装着可能ポート モジュール) を備えたポートをサポートしています。

<b>カテゴリ</b>	ポート
<b>セキュリティ</b>	プロビジョニング
<b>入力形式</b>	DLT-<MOD1PAYLOAD>:[<TID>]:<AID>:<CTAG>[:::];
<b>入力例</b>	DLT-GIGE:TID:FAC-5-1:1;
<b>入力パラメータ</b>	<AID>                      アクセス ID ( <a href="#">「25.15 FACILITY」 [p.25-34]</a> を参照)

## 10.2 DLT-<MOD\_RING>

(Cisco ONS 15454、ONS 15327、ONS 15600) Delete Bidirectional Line Switched Ring (DLT-<MOD\_RING>) コマンドは、NE の BLSR を削除します。



(注) ONS 15327 では、4 ファイバ BLSR をサポートしていません。

### 使用上のガイドライン

- IOR の取得中にシステムで障害が発生すると、SROG (Status, Get IOR Failed) エラーメッセージが返されます。
- AID が無効の場合、IIAC (Invalid AID) エラーメッセージが返されます。
- BLSR が存在しない場合、SRQN (BLSR Does Not Exist) エラーメッセージが返されます。
- このコマンドでは、ALL AID は無効です。
- AID のリスト形式は Software Release 4.6 からサポートされています。
- 無効なクエリーを指定すると、SROF (Facility Not Provisioned or Cannot Access BLSR) エラーメッセージが返されます。
- BLSR が使用中の場合は、SROF (BLSR In Use) エラーメッセージが返されます。
- 無効な削除クエリーを指定すると、SRQN (BLSR Deletion Failed) エラーメッセージが返されます。

### カテゴリ

BLSR

### セキュリティ

プロビジョニング

### 入力形式

DLT-<MOD\_RING>:[<TID>]:<AID>:<CTAG>[:::];

### 入力例

DLT-BLSR:PETALUMA:BLSR-2:123;

### 入力パラメータ

<AID>	アクセス ID (「 <a href="#">25.3 AidUnionId1</a> 」 [p.25-16] を参照)。Network Element (NE; ネットワーク要素) の BLSR を識別します。ALL または BLSR-ALL AID は、BLSR の編集に使用できません。
-------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 10.3 DLT-BULKROLL-<OCN\_TYPE>

(Cisco ONS 15454、ONS 15327、ONS 15310-CL、ONS 15310-MA、ONS 15600) OC12、OC192、OC3、OC48 の Delete Bulkroll (DLT-BULKROLL-<OCN\_TYPE>) コマンドは、試行されたファシリティの一括ローリング操作を削除するか、試行されたローリング操作を完了させます。このコマンドは、回線レベルの一括ローリングに使用されます。単一パスレベルのローリングには DLT-ROLL-<MOD\_PATH> を使用します。

**使用上のガイドライン** プラットフォーム別にサポートされる修飾子については、表 27-1 (p.27-1) を参照してください。

**カテゴリ** ブリッジおよびロール

**セキュリティ** プロビジョニング

**入力形式** DLT-BULKROLL-<OCN\_TYPE>:[<TID>]:<FROM>:<CTAG>:::  
[RFROMSTART=<RFROMSTART>],[RFROMEND=<RFROMEND>],WHY=<WHY>;

**入力例** DLT-BULKROLL-OC12:CISCO:FAC-1-1-1:6:::RFROMSTART=STS-1-1-1,  
RFROMEND=STS-1-1-11,WHY=STOP;

<b>入力パラメータ</b>	<FROM>	エンドポイントの一方の側。回線レベルローリングおよび一括ローリングのアクセス ID です ([25.15 FACILITY] [p.25-34] を参照)。
	<RFROMSTART>	送信元ロールポートの開始時刻スロット。一括ローリングのみ。AID ([25.11 CrossConnectId1] [p.25-25]) を参照 (VCM および FACILITY を除く)。デフォルトは STS-<FROMSLOT>-<FROMPORT>-1 です。ここで、<FROMSLOT> および <FROMPORT> は <FROM> AID のスロットおよびポートです。
	<RFROMEND>	送信元ロールポートの終了時刻スロット。一括ローリングのみ。AID ([25.11 CrossConnectId1] [p.25-25]) を参照 (VCM および FACILITY を除く)。デフォルトは STS-<FROMSLOT>-<FROMPORT>-N です。ここで、<FROMSLOT> および <FROMPORT> は <FROM> AID のスロットおよびポート、N は OC-N の値 (OC48 の場合、N=48) です。
	<WHY>	削除理由。パラメータタイプは WHY (削除理由) です。
	• END	ロール対象のレグをドロップ。レグは、ENT-ROLL/ENT-BULKROLL で RFROM により識別されます。
	• STOP	ローリング操作は停止され、前のコンフィギュレーションに戻されます。

## 10.4 DLT-CRS-<PATH>

(Cisco ONS 15454、ONS 15327、ONS 15310-CL、ONS 15310-MA、ONS 15600) STS1、STS12C、STS18C、STS192C、STS24C、STS36C、STS3C、STS48C、STS6C、STS9C、VT1、VT2 の Delete Cross-Connection (DLT-CRS-<PATH>) コマンドは、Synchronous Transport Signal (STS; 同期転送信号) パス間のクロスコネクタを削除します。STS パスは、その STS AID を使用して指定します。

### 使用上のガイドライン

プラットフォーム別にサポートされる修飾子については、表 27-1 [p.27-1] を参照してください。



(注)

- CTAG のあとのフィールド (コロン) は省略できます。
- 単方向のクロスコネクタの場合は、AID を最初に入力したのと同じ順序で指定する必要があります。双方向のクロスコネクタの場合は、どちらの順序でも機能します。
- このコマンドでは、複数の STS クロスコネクタを削除できません。
- このコマンドの AID フィールドで「&」を使用すると、Unidirectional Path Switched Ring (UPSR; 単方向パス スイッチ型リング) STS クロスコネクタを削除することができます。
  - 次のポイントを指定して、単方向セクタまたは双方向セクタとブリッジを削除するには、次のコマンドを使用します。
    - 開始ポイント : F1、F2
    - 終了ポイント : T1
    - DLT-CRS-{STS\_PATH};[<TID>]:F1&F2,T1:<CTAG>;
  - 次のポイントを指定して、単方向ブリッジまたは双方向セクタとブリッジを削除するには、次のコマンドを使用します。
    - 開始ポイント : F1
    - 終了ポイント : T1、T2
    - DLT-CRS-{STS\_PATH};[<TID>]:F1,T1&T2:<CTAG>;
  - 次のポイントを指定して、単方向または双方向従属 UPSR 接続を削除するには、次のコマンドを使用します。
    - 開始ポイント : F1、F2
    - 終了ポイント : T1、T2
    - DLT-CRS-{STS\_PATH};[<TID>]:F1&F2,T1&T2:<CTAG>;
- 削除コマンドの AID 形式は、取得されたレスポンス メッセージの AID 形式と同じです。たとえば、取得した AID の出力が [F1&F2,T1:CCT,STS3C] の場合、このクロスコネクタを削除するには、この AID 形式 (F1&F2,T1) を使用して削除コマンドを実行する必要があります。
- UPSR IDRI クロスコネクタを削除するには、次のコマンドを使用します。
  - DLT-CRS-{STS\_PATH};[<TID>]:A&B,C&D:<CTAG>;
  - A — リング Y からのトラフィックがブリッジされるリング X 上のパス
  - B — 同一リングからのトラフィックがブリッジされるリング X 上のパス
  - C — リング X からのトラフィックがブリッジされるリング Y 上のパス
  - D — 同一リングからのトラフィックがブリッジされるリング Y 上のパス
  - A、B、C、および D は位置を示します。接続タイプ 2WAYDC は、UPSR IDRI クロスコネクタに使用されます。
- UPSR Dual-Ring Interconnect (DRI; デュアルリング相互接続) クロスコネクタを削除するには、次のコマンドを使用します。
  - DLT-CRS-{STS\_PATH};[<TID>]:A&B,C:<CTAG>;
  - A — リング Y からのトラフィックがブリッジされるリング X 上のパス

B — 同一リングからのトラフィックがブリッジされるリング X 上のパス

C — リング Y で送受信されるトラフィック

A、B、C、および D は位置を示します。接続タイプ 2WAYDC は、UPSR DIR クロスコネク  
トに使用されます。

- TL1 クロスコネク ト コマンドでのすべての A&B AID は、WorkingAID&ProtectAID の形式にな  
ります。
- 追加のドロップが接続オブジェクトに追加された場合は、実装時の動作に問題が発生する場  
合があります。
- ファシリティ AID は、G1K-4 カードを入れるスロットに対してだけ有効です。
- 仮想ファシリティ AID (VFAC) は、ML シリーズ カードが装着されているスロットでだけ有  
効です。
- CKTID は ASCII 形式の文字列です。CKTID は 48 文字以内で指定できます。CKTID を空また  
はヌルにすると、フィールドは表示されません。
- すべてのオプション パラメータのデフォルト値は、NE のデフォルト値になります。これら  
の値は、パラメータの現在の値とは異なる場合があります。現在の値を取得するには、RTRV-XX  
コマンドを実行してください。

カテゴリ

クロスコネク ト

セキュリティ

プロビジョニング

入力形式

DLT-CRS-<PATH>:[<TID>]:<SRC>,<DST>:<CTAG>[:::[CKTID=<CKTID>],  
[CMDMDE=<CMDMDE>]];

入力例

DLT-CRS-ST512C:VINBURG:STS-1-1-1,STS-12-1-1:102:::CKTID=CKTID,CMDMDE=CMDMDE;

入力パラメータ

<SRC>	送信元 AID (「25.11 CrossConnectId1」 [p.25-25] を参照)
<DST>	宛先 AID (「25.11 CrossConnectId1」 [p.25-25] を参照)
<CKTID>	タイプはストリングです。
<CMDMDE>	パラメータ タイプは コマンド モード (持続状態に関係なく、指定されたコマ ンドを強制的に実行する) です。NORM モードは、すべてのコマンドに対し するデフォルト動作です。ただし、FRCD を指定して、通常であればコマ ンドが拒否されるステートを強制的に無効にできます。
• FRCD	通常であればコマンドが拒否されるステートを強制的に無効にできます。
• NORM	コマンドを通常どおりに実行します。コマンドを失敗させる可能性のある状 態は無効にしません。

## 10.5 DLT-EQPT

(Cisco ONS 15454、ONS 15327、ONS 15310-CL、ONS 15310-MA、ONS 15600) Delete Equipment (DLT-EQPT) コマンドは、NE からカードを削除します。

このコマンドは、特定のスロットに対して入力されたカード タイプやアトリビュートを削除します。割り当てられたファシリティもすべて削除されます。カードが保護グループの一部であったり、カードにクロスコネク トエンドポイントがある場合、コマンドは拒否されます。

DLT-EQPT コマンドは、今後使用しないシェルフの削除にも使用できます。シェルフを削除するには、機器が接続されていない状態か、または機器とそのアトリビュートが使用中でなく、削除可能な状態でなければなりません。後者の場合、1 つの SHELF- $\{1-8\}$  の REPT-DBCHG メッセージのみが報告されます。ノードコントローラ シェルフ (シェルフ ID が 1 のシェルフ) は削除できません。

### 使用上のガイドライン

保護グループの一部に含まれるカードを削除する場合は、最初に ED-EQPT コマンドを使用して保護グループからそのカードを削除する必要があります。

機器を削除する場合のエラー条件は次のとおりです。

- 次の状況ではエラー メッセージ SPLD (Equipment In Use) が返されます。
  - カードが保護グループに含まれている場合。
  - カードに、クロスコネク トか Data Communications Channel (DCC; データ通信チャネル)、Generic Communications Channel (GCC; 汎用通信チャネル)、または Optical Service Channel (OSC; オプティカル サービス チャネル) がある場合、あるいはプロビジョニング可能パッチコード終端が装備されている場合。
  - そのファシリティのいずれかが、同期ソースとして使用されている場合。
- カードがプロビジョニングされていない場合は、エラー メッセージが返されます。



### (注)

Cisco ONS 15310-MA では、現用および保護カードの両方のプロビジョニングが行われると、自動 1:1 保護グループが作成されます。保護カードが削除されると、保護グループも削除されます。1:1 保護グループ内で保護カードの削除は実行できますが、現用カードを削除しようとする、SPLD (Equipment In Use) エラーとなります。

カテゴリ	機器
セキュリティ	プロビジョニング
入力形式	DLT-EQPT:[<TID>]:<AID>:<CTAG>[::];
入力例	DLT-EQPT:SONOMA:SLOT-1:104;
入力パラメータ	<AID>                    アクセス ID (「 <a href="#">25.14 EQPT</a> 」 <a href="#">[p.25-32]</a> を参照)。操作を実行する機器ユニットを識別します。

## 10.6 DLT-FFP-<MOD2DWDMPAYLOAD>

(Cisco ONS 15454) 10GFC、10GIGE、1GFC、1GFICON、1GISC3、2GFC、2GFICON、2GISC3、4GFC、4GFICON、D1VIDEO、DV6000、ETRCLO、GIGE、HDTV、ISC1、ISC3、PASSTHRU の Delete Facility Protection Group (DLT-<MOD2DWDMPAYLOAD>) コマンドは、クライアント ファシリティの Y 字ケーブル保護を削除します。

**使用上のガイドライン** なし

**カテゴリ** DWDM

**セキュリティ** プロビジョニング

**入力形式** DLT-FFP-<MOD2DWDMPAYLOAD>:[<TID>]:<SRC>,<DST>:<CTAG>[:::];

**入力例** DLT-FFP-HDTV:CISCO:FAC-1-1-1,FAC-2-1-1:100;

<b>入力パラメータ</b>	<SRC>	現用ファシリティ AID ( <a href="#">「25.15 FACILITY」</a> [p.25-34] を参照)
	<DST>	保護ファシリティ AID ( <a href="#">「25.15 FACILITY」</a> [p.25-34] を参照)

## 10.7 DLT-FFP-<OCN\_TYPE>

(Cisco ONS 15454、ONS 15327、ONS 15310-CL、ONS 15310-MA、ONS 15600) OC3、OC12、OC48、OC192 の Delete Facility Protection Group (DLT-FFP-<OCN\_TYPE>) コマンドは、1+1 保護方式の OC-N ファシリティ保護グループを削除します。

**使用上のガイドライン** プラットフォーム別にサポートされる修飾子については、[表 27-1 \(p.27-1\)](#) を参照してください。保護グループが存在しない場合は、エラーメッセージが返されます。

**カテゴリ** 保護

**セキュリティ** プロビジョニング

**入力形式** DLT-FFP-<OCN\_TYPE>:[<TID>]:<WORK>,<PROTECT>:<CTAG>[:::];

**入力例** DLT-FFP-OC3:PETALUMA:FAC-2-1,FAC-1-1:1;

**入力パラメータ**

## ■ 10.7 DLT-FFP-&lt;OCN\_TYPE&gt;

---

<WORK>	現用ファシリティ AID ( <a href="#">「25.15 FACILITY」</a> <a href="#">[p.25-34]</a> を参照)
<PROTECT>	保護ファシリティ AID ( <a href="#">「25.15 FACILITY」</a> <a href="#">[p.25-34]</a> を参照)

---



## 10.8 DLT-LMP-CTRL

(Cisco ONS 15454、ONS 15327、ONS 15310-CL、ONS 15310-MA、ONS 15600) Delete Link Management Protocol Control Channel (DLT-LMP-CTRL) コマンドは、LMP 制御チャネルを削除します。

**使用上のガイドライン** このコマンドは、LMP プロトコルがサポートされ、イネーブルであるノードでのみ適用可能です。

**カテゴリ** DWDM

**セキュリティ** メンテナンス

**入力形式** DLT-LMP-CTRL:[<TID>]:<SRC>:<CTAG>;

**入力例** DLT-LMP-CTRL:PETALUMA:CTRL-3:704;

入力パラメータ	<SRC>	LMP 制御チャネル
	• CTRL-ALL	すべての制御チャネルを指定します。
	• CTRL- $\{1-4\}$	個々の制御チャネルを指定します。

## 10.9 DLT-LMP-TLINK

(Cisco ONS 15454、ONS 15327、ONS 15310-CL、ONS 15310-MA、ONS 15600) Delete Link Management Protocol Traffic Engineering (TE) Link (DLT-LMP-TLINK) コマンドは、LMP TE チャネルを削除します。

**使用上のガイドライン** このコマンドは、LMP プロトコルがサポートされ、イネーブルであるノードでのみ適用可能です。

**カテゴリ** DWDM

**セキュリティ** メンテナンス

**入力形式** DLT-LMP-TLINK:[<TID>]:<SRC>:<CTAG>;

**入力例** DLT-LMP-TLINK:PETALUMA:TLINK-3:704;

入力パラメータ	<SRC>	LMP TE リンク
	• TLINK-ALL	すべての TE リンクを指定します。
	• TLINK- $\{1-256\}$	個々の TE リンクを指定します。

## 10.10 DLT-LMP-DLINK

(Cisco ONS 15454、ONS 15327、ONS 15310-CL、ONS 15310-MA、ONS 15600) Delete Link Management Protocol Data Link (DLT-LMP-DLINK) コマンドは、LMP データ リンクを削除します。

<b>使用上のガイドライン</b>	このコマンドは、LMP プロトコルがサポートされ、イネーブルであるノードでのみ適用可能です。
<b>カテゴリ</b>	DWDM
<b>セキュリティ</b>	メンテナンス
<b>入力形式</b>	DLT-LMP-DLINK:[<TID>]:<SRC>:<CTAG>;
<b>入力例</b>	DLT-LMP-DLINK:PETALUMA:FAC-14-1-1:704;
<b>入力パラメータ</b>	<SRC>                      アクセス ID (「 <a href="#">25.15 FACILITY</a> 」 <a href="#">[p.25-34]</a> を参照)

## 10.11 DLT-LNK

(Cisco ONS 15454) OCH、OMS、または OTS の Delete Optical Link (DLT-LNK) コマンドは、2つの光接続ポイント間の光リンクを削除します。光リンクは、関係している光接続ポイントの AID を使用して指定されます。

<b>使用上のガイドライン</b>	なし
<b>カテゴリ</b>	DWDM
<b>セキュリティ</b>	プロビジョニング
<b>入力形式</b>	DLT-LNK:[<TID>]:<FROM>,<TO>:<CTAG>;
<b>入力例</b>	DLT-LNK:PENNGROVE:BAND-6-1-TX,BAND-13-1-RX:114;
<b>入力パラメータ</b>	<FROM>                      光リンクの片方の端の ID (「 <a href="#">25.4 BAND</a> 」 <a href="#">[p.25-16]</a> を参照)
	<TO>                              光リンクのもう一方の端の ID (「 <a href="#">25.4 BAND</a> 」 <a href="#">[p.25-16]</a> を参照)

## 10.12 DLT-LNKTERM

(Cisco ONS 15454、ONS 15310-CL) Delete a Provisionable Patchcord Termination (DLT-LNKTERM) コマンドは、ノード上に存在するプロビジョニング可能なパッチコード終端を削除します。リンクを完全に削除するためには、リンク / プロビジョニング可能パッチコードの終端地点をすべて削除する必要があります。

**使用上のガイドライン** このコマンドは、複数の AID を受け入れますが、ALL AID は受け入れません。

リンク終端が存在しない場合は、対応するエラーが返されます。

**カテゴリ** プロビジョニング可能なパッチコード

**セキュリティ** プロビジョニング

**入力形式** DLT-LNKTERM:[<TID>]:<AID>:<CTAG>;

**入力例** DLT-LNKTERM::LNKTERM-1:CTAG;

**入力パラメータ** <AID> アクセス ID (「[25.19 LNKTERM](#)」[\[p.25-40\]](#) を参照)。ローカル ノード上にあるリンク (プロビジョニング可能パッチコード) 終端を示します。

## 10.13 DLT-OCHCC

(Cisco ONS 15454) Delete Optical Channel Client Connection (DLT-OCHCC) コマンドは、OCH クライアント接続を削除します。

**使用上のガイドライン** なし

**カテゴリ** DWDM

**セキュリティ** プロビジョニング

**入力形式** DLT-OCHCC:[<TID>]:<AID>:<CTAG>[::<CKTID>=<CKTID>],[<CMDMDE>=<CMDMDE>];

**入力例** DLT-OCHCC:VA454-22:FAC-2-1-1:116:::CKTID=\\”OCHCC-1\\”,CMDMDE=FRCD;

<b>入力パラメータ</b>	<AID>	アクセス ID (「 <a href="#">25.15 FACILITY</a> 」 [p.25-34] を参照)
	<CKTID>	クロスコネクト ID。デフォルトは Blank または None です。ASCII 文字の文字列で 48 文字以内です。CKTID が空またはヌルの場合、CKTID フィールドは表示されません。
	<CMDMDE>	パラメータ タイプは コマンド モード (持続状態に関係なく、指定されたコマンドを強制的に実行する) です。NORM モードは、すべてのコマンドに対するデフォルト動作です。ただし、FRCD を指定して、通常であればコマンドが拒否されるステートを強制的に無効にできます。
	• FRCD	通常であればコマンドが拒否されるステートを強制的に無効にできます。
	• NORM	コマンドを通常どおりに実行します。コマンドを失敗させる可能性のある状態は無効にしません。

## 10.14 DLT-OCHNC

(Cisco ONS 15454) Delete Optical Channel Network Connection (DLT-OCHNC) コマンドは、OCH ネットワーク接続を削除します。

### 使用上のガイドライン

ノード内で波長チャネルを識別するには、2つのネットワーク接続チャネルエンドポイントを指定する必要があります。

### カテゴリ

DWDM

### セキュリティ

プロビジョニング

### 入力形式

DLT-OCHNC:[<TID>]:<SRC>,<DST>:<CTAG>:::[CKTID=<CKTID>],[CMDMDE=<CMDMDE>];

### 入力例

DLT-OCHNC:VA454-22:CHANWL-1-3-TX-1530.33,  
CHANWL-4-1-RX-1530.33:116::CKTID=CIRCUIT,CMDMDE=FRCD;

### 入力パラメータ

<SRC>	送信元アクセス ID (「25.8 CHANNEL」 [p.25-19] を参照)。双方向波長接続の送信元の場合は両方向を示す必要があります。
<DST>	宛先のアクセス ID (「25.18 LINEWL」 [p.25-39] を参照)。双方向波長接続の送信元の場合は両方向を示す必要があります。
<CKTID>	クロスコネクト ID。デフォルトは空白またはなしです。ASCII 文字の文字列で 48 文字以内です。CKTID が空またはヌルの場合、CKTID フィールドは表示されません。
<CMDMDE>	パラメータタイプはコマンドモード (持続状態に関係なく、指定されたコマンドを強制的に実行する) です。NORM モードは、すべてのコマンドに対するデフォルト動作です。ただし、FRCD を指定して、通常であればコマンドが拒否されるステートを強制的に無効にできます。
• FRCD	通常であればコマンドが拒否されるステートを強制的に無効にできます。
• NORM	コマンドを通常どおりに実行します。コマンドを失敗させる可能性のある状態は無効にしません。

## 10.15 DLT-OSC

(Cisco ONS 15454) Delete Optical Service Channel (DLT-OSC) コマンドは、NE の OSC グループを削除します。

使用上のガイドライン	なし
カテゴリ	DWDM
セキュリティ	プロビジョニング
入力形式	DLT-OSC:[<TID>]:<AID>:<CTAG>;
入力例	DLT-OSC:PENNGROVE:OSC-1:114;
入力パラメータ	<AID>      アクセス ID (「 <a href="#">25.21 OSC</a> 」 [p.25-41] を参照)。NE の OSC グループを識別します。

## 10.16 DLT-RMONTH-<MOD2\_RMON>

(Cisco ONS 15454、ONS 15327、ONS 15310-CL、ONS 15310-MA) 10GFC、10GIGE、1GFC、1GFICON、2GFC、2GFICON、4GFC、4GFICON、FSTE、G1K-4、GFPOS、GIGE、OCH、または POS の Delete Remote Monitoring Threshold (DLT-RMONTH-<MOD2\_RMON>) コマンドは、Remote Monitoring (RMON) アラーム テーブルのスレッシュホールド エントリを削除します。特定の MONTYPE に対して複数のスレッシュホールドが作成される可能性があるため、削除する特定のスレッシュホールドに必要なパラメータをすべて指定する必要があります。

**使用上のガイドライン** プラットフォーム別にサポートされる修飾子については、[表 27-1 \(p.27-1\)](#) を参照してください。

**カテゴリ** パフォーマンス

**セキュリティ** プロビジョニング

**入力形式** DLT-RMONTH-<MOD2\_RMON>:[<TID>]:<SRC>:<CTAG>::<MONTYPE>,,,<INTVL>:  
RISE=<RISE>,FALL=<FALL>,[SAMPLE=<SAMPLE>],[STARTUP=<STARTUP>][:];

**入力例** DLT-RMONTH-GIGE:CISCO:FAC-2-1:1234::ETHERSTATSOCTETS,,,100:RISE=1000,FALL=100  
SAMPLE=DELTA,STARTUP=RISING;

<b>入力パラメータ</b>	<SRC>	送信元アクセス ID ( <a href="#">「25.15 FACILITY」</a> [p.25-34] を参照)。データ統計を管理するファシリティの AID です。
	<MONTYPE>	モニタ対象のタイプ RMON モニタ対象データ統計のタイプ。パラメータタイプは、ALL_MONTYPE (モニタ対象タイプのリスト) です。
	• AISSP	Alarm Indication Signal (AIS; アラーム表示信号) の秒数 — パス
	• ALL	使用可能なすべての値
	• BBE-PM	OTN — バックグラウンドブロック エラー — パス モニタ ポイント
	• BBE-SM	OTN — バックグラウンドブロック エラー — セクション モニタ ポイント
	• BBER-PM	OTN — バックグラウンドブロック エラー率 — パス モニタ ポイント (パーミル値)
	• BBER-SM	OTN — バックグラウンドブロック エラー率 — セクション モニタ ポイント (パーミル値)
	• BIEC	FEC — ビットエラー修正済み
	• CGV	8B10B — コードグループ違反
	• CSSP	制御スリップ秒数 — パス (DSXM-12 FDL/T1.403 PM カウント)
	• CVCPP	コーディング違反 — CP ビットパス
	• CVL	コーディング違反 — 回線
	• CVP	コーディング違反 — パス
	• CVS	コーディング違反 — セクション
	• CVV	コーディング違反 — セクション

• DCG	8B10B — データ コード グループ
• ESAP	エラー秒数タイプ A — パス (DS3XM-12 DS1 PM カウント)
• ESBP	エラー秒数タイプ B — パス (DS3XM-12 DS1 PM カウント)
• ESCPP	エラー秒数 — CP — ビット パス
• ESL	エラー秒数 — 回線
• ESNPFE	エラー秒数 — ネットワーク パス (DS3XM-12 DS1 PM カウント)
• ESP	エラー秒数 — パス
• ES-PM	OTN — エラー秒数 — パス モニタ ポイント
• ES-SM	OTN — エラー秒数 — セクション モニタ ポイント
• ESR	エラー秒数 — 率
• ESR-PM	エラー秒数率 — パス モニタ ポイント (パーミル値)
• ESR-SM	エラー秒数率 — セクション モニタ ポイント (パーミル値)
• ESS	エラー秒数 — セクション
• ESV	エラー秒数 — VT パス
• etherStatsBroadcastPkts	受信したマルチキャスト アドレス宛ての良好パケット数の合計
• etherStatsCollisions	衝突する伝送パケット数
• etherStatsCRCAlignErrors	長さが 64 ~ 1518 オクテット (フレーム構成ビットを除く、ただし Frame Check Sequence[FCS; フレーム チェック シーケンス] オクテットは含む) の受信パケット数の合計
• etherStatsDropEvents	ポート レベルで廃棄された受信フレーム数
• etherStatsFragments	受信した 64 オクテット未満のパケット数の合計
• etherStatsJabbers	受信した 1518 オクテット超のパケット数の合計
• etherStatsOctets	データのオクテット数の合計
• etherStatsOversizePkts	受信した 1518 オクテット超のパケット数の合計
• etherStatsPkts	受信したパケット数の合計 (不良パケット、ブロードキャストパケット、マルチキャストパケットを含む)
• etherStatsUndersizePkts	受信した 64 オクテット未満のパケット数の合計
• FCP	障害発生回数 — 回線
• FC-PM	OTN — 障害カウント — パス モニタ ポイント
• FC-SM	OTN — 障害カウント — セクション モニタ ポイント
• HP-AR	アベイラビリティ率
• HP-BBE	高次パスのバックグラウンドブロック エラー
• HP-BBER	高次パスのバックグラウンドブロック エラー率
• HP-EB	高次パスのエラー ブロック
• HP-ES	高次パスのエラー秒数
• HP-ESA	高次パスのエラー秒数 — A
• HP-ESB	高次パスのエラー秒数 — B
• HP-ESR	高次パスのエラー秒数率
• HP-FC	高次パスの障害カウント
• HP-NPJC-PDET	高次パスの負のポインタ位置調整カウント
• HP-NPJC-PGEN	高次パス、負のポインタ位置調整カウント
• HP-OI	停止強度
• HP-PJCDIFF	高次パスのポインタ位置調整カウントの差異
• HP-PJCS-PDET	高次パスのポインタ位置調整カウント
• HP-PJCS-PGEN	高次パスのポインタ位置調整カウント秒数
• HP-PPJC-PDET	高次パスの正のポインタ位置調整カウント
• HP-PPJC-PGEN	高次パス、正のポインタ位置調整カウント



• HP-SEPI	使用可能時間内の SEP イベント数
• HP-SES	高次パスの重大エラー秒数
• HP-SESR	高次パスの重大エラー秒数率
• HP-UAS	高次パスの使用不可秒数
• ifInBroadcastPkts	前回のカウンタ リセット以降、受信したブロードキャスト パケット数
• ifInDiscards	着信パケット数
• ifInErrorBytePktss	受信エラー バイト
• ifInErrors	エラーを含む着信パケット (または伝送ユニット) 数
• ifInFramingErrorPkts	受信フレーム構成エラー
• ifInJunkInterPkts	受信インターパケット ジャンク
• ifInMulticastPkts	前回のカウンタ リセット以降、受信したマルチキャスト パケット数
• ifInOctets	前回のカウンタ リセット以降、伝送されたバイト数
• ifInUcastPkts	前回のカウンタ リセット以降、受信したユニキャスト パケット数
• ifOutBroadcastPkts	伝送されたブロードキャスト パケット数
• ifOutDiscards	送信パケット数
• ifOutErrors	エラーのため伝送できなかった送信パケット (または伝送ユニット) 数
• ifOutMulticastPkts	伝送されたマルチキャスト パケット数
• ifOutPayloadCrcErrors	受信ペイロード CRC エラー
• ifOutUcastPkts	伝送されたユニキャスト パケット数
• IOS	8B10B — アイドル順序セット
• IPC	無効なパケット カウント
• LBCL-AVG	平均レーザー バイアス電流 (μA)
• LBCL-MAX	最大レーザー バイアス電流 (μA)
• LBCL-MIN	最小レーザー バイアス電流 (μA)
• LBCN	正規化された OC3-8 レーザー バイアス電流
• LBCN-HWT	レーザー バイアス電流
• LBCN-LWT	レーザー バイアス電流
• LOSSL	Loss of Signal (LOS; 信号損失) 秒数 — 回線
• LP-BBE	低次パスのバックグラウンドブロック エラー
• LP-BBER	低次パスのバックグラウンドブロック エラー率
• LP-EB	低次パスのエラー ブロック
• LP-ES	低次パスのエラー秒数
• LP-ESA	低次パスのエラー秒数 — A
• LP-ESB	低次パスのエラー秒数 — B
• LP-ESR	低次パスのエラー秒数率
• LP-FC	低次パスの障害カウント
• LP-NPJC-DET	低次の負のポインタ位置調整カウント、検出
• LP-NPJC-GEN	低次の負のポインタ位置調整カウント、生成
• LP-PPJC-DET	低次の正のポインタ位置調整カウント、検出
• LP-PPJC-GEN	低次の正のポインタ位置調整カウント、生成
• LP-SEP	低次パスの重大エラー時間
• LP-SEPI	低次パスの重大エラー期間強度
• LP-SES	低次パスの重大エラー

• LP-UAS	低次パスの使用不可秒数
• MS-PSC	保護スイッチ カウント
• MS-PSD	保護スイッチ時間
• NIOS	8B10B — 非アイドル順序セット
• NPJC-PDET	NPJC-PDET : 負のポインタ位置調整
• NPJC-PGEN	NPJC-PGEN : 負のポインタ位置調整
• OPR-AVG	平均受信パワー (1/10 $\mu$ W)
• OPR-MAX	最大受信パワー (1/10 $\mu$ W)
• OPR-MIN	最小受信パワー (1/10 $\mu$ W)
• OPRN	正規化された OC3-8 光受信パワー
• OPRN-MAX	OPRN の最大値
• OPRN-MIN	OPRN の最小値
• OPT-AVG	平均送信パワー (1/10 $\mu$ W)
• OPT-MAX	最大送信パワー (1/10 $\mu$ W)
• OPT-MIN	最小送信パワー (1/10 $\mu$ W)
• OPTN	OC3-8 カードの正規化された光送信パワー値
• OPTN-MAX	OPTN の最大値
• OPTN-MIN	OPTN の最小値
• OPWR-AVG	光パワー — 平均間隔値 (1/10 dBm)
• OPWR-MAX	光パワー — 最大間隔値 (1/10 dBm)
• OPWR-MIN	光パワー — 最小間隔値 (1/10 dBm)
• PPJC-PDET	PPJC-PDET : 正のポインタ位置調整
• PPJC-PGEN	PPJC-PGEN : 正のポインタ位置調整
• PSC	保護スイッチング カウント
• PSC-R	保護スイッチング カウント — リング
• PSC-S	保護スイッチング カウント — スパン
• PSC-W	保護スイッチング カウント — 現用
• PSD	保護スイッチング時間
• PSD-R	保護スイッチング時間 — リング
• PSD-S	保護スイッチング時間 — スパン
• PSD-W	保護スイッチング時間 — 現用
• SASCPP	重大エラー フレーム構成 /AIS 秒数 — CP ビット パス
• SASP	重大エラー フレーム構成 /AIS 秒数パス
• SEFS	重大エラー フレーム構成秒数
• SEFSP	重大エラー フレーム構成秒数 — パス (DS3XM-12 DS1 PM カウン ト)
• SESCOPP	重大エラー秒数 — CP ビット パス
• SESL	重大エラー秒数 — 回線
• SESNPF	重大エラー秒数 — ネットワーク パス (DS3XM-12 DS1 PM カウ ント)
• SESP	重大エラー秒数 — パス
• SES-PM	OTN — 重大エラー秒数 — パス
• SESR-PM	OTN — 重大エラー秒数率 — パス モニタ ポイント (パーミル値)
• SESR-SM	OTN — 重大エラー秒数率 — セクション モニタ ポイント (パー ミル値)
• SESS	重大エラー秒数 — セクション
• SES-SM	OTN — 重大エラー秒数 — セクション モニタ ポイント

• SESV	重大エラー秒数 — VT パス
• UASCPP	使用不可秒数 — CP ビットパス
• UASL	使用不可秒数 — 回線
• UASNPFE	使用不可秒数 — ネットワークパス (DS3XM-12 DS1 PM カウント)
• UASP	使用不可秒数 — パス
• UAS-PM	OTN — 使用不可秒数 — パス モニタ ポイント
• UAS-SM	OTN — 使用不可秒数 — セクション モニタ ポイント
• UASV	使用不可秒数 — VT パス
• UNC-WORDS	Forward Error Correction (FEC; 前方エラー訂正) — 訂正不能ワード
• VPC	有効パケット カウント
<INTVL>	データがサンプリングされて、上限スレッシユホールドおよび下限スレッシユホールドと比較される間隔 (秒数)。有効な値は 10 (秒) 以上の整数です。
<RISE>	サンプリングされた統計情報の上限スレッシユホールド。有効な値は任意の整数です。
<FALL>	下限スレッシユホールド。有効な値は上限スレッシユホールドより小さい任意の整数です。
<SAMPLE>	スレッシユホールドの比較対象となる値を計算する方法。  パラメータタイプは <b>SAMPLE_TYPE</b> で、サンプリング期間中のデータの計算方法を記述します。
• ABSOLUTE	直接比較します。
• DELTA	選択された変数の、最後のサンプルを差し引いた現在の値と比較します。
<STARTUP>	最初の有効なサンプルが上限スレッシユホールド以上か下限スレッシユホールド以下、あるいはその両方である場合に、イベントを生成するかどうかを指示します。  パラメータタイプは <b>STARTUP_TYPE</b> で、最初の有効なサンプルが上限スレッシユホールドまたは下限スレッシユホールドを超えた場合にイベントが生成されることを示します。
• FALLING	サンプルが下限スレッシユホールドよりも小さい場合はイベントが生成されます。
• RISING	サンプルが上限スレッシユホールドよりも大きい場合はイベントが生成されます。
• RISING-OR-FALLING	サンプルが上限スレッシユホールド、または下限スレッシユホールドを超える場合はイベントが生成されます。

## 10.17 DLT-ROLL-<MOD\_PATH>

(Cisco ONS 15454、ONS 15327、ONS 15310-CL、ONS 15310-MA、ONS 15600) STS1、STS12C、STS18C、STS192C、STS24C、STS36C、STS3C、STS48C、STS6C、STS9C、VT1、VT2 の Delete Roll (DLT-ROLL-MOD\_PATH) コマンドは、ファシリティのローリング操作を削除または完了させる、あるいはローリング操作を完了させます。

### 使用上のガイドライン

プラットフォーム別にサポートされる修飾子については、[表 27-1 \(p.27-1\)](#) を参照してください。



(注)

このリリースでは、このコマンドに対して STS18C および STS36 はサポートされていません。

### カテゴリ

ブリッジおよびロール

### セキュリティ

プロビジョニング

### 入力形式

DLT-ROLL-<MOD\_PATH>:[<TID>]:<FROM>,<TO>:<CTAG>::WHY=<WHY>;

### 入力例

DLT-ROLL-STS1:CISCO:STS-1-1-1,STS-2-1-1:6::WHY=STOP;

### 入力パラメータ

<FROM>	送信元 AID (「 <a href="#">25.11 CrossConnectId1</a> 」 [p.25-25]) を参照。(VCM および FACILITY を除く)。既存のクロスコネクトの片方の終端地点 (レグ)。既存のクロスコネクトが片方向の場合、この終端地点 (レグ) は FROM-AID 終端地点になります。それ以外の場合、FROM は重要ではありません。FROM と TO は、ENT-CRS コマンドで入力されたとおりに入力する必要があります。RTRV-CRS コマンドを発行して、FROM および TO パラメータにレスポンスを使用できます。
<TO>	宛先 AID については、「 <a href="#">25.11 CrossConnectId1</a> 」 (p.25-25) を参照してください (VCM および FACILITY 以外)。既存のクロスコネクトの片方の終端地点 (レグ)。既存のクロスコネクトが片方向の場合、この終端地点 (レグ) は TO-AID 終端地点になります。それ以外の場合、TO は重要ではありません。FROM と TO は、ENT-CRS コマンドで入力されたとおりに入力する必要があります。RTRV-CRS コマンドを発行して、FROM および TO パラメータにレスポンスを使用できます。
<WHY>	削除理由。パラメータ タイプは WHY (削除理由) です。
• END	ロールするレグの廃棄 (ENT-ROLL コマンドで RFROM により識別されるレグ)
• STOP	ローリング操作は削除され、前のコンフィギュレーションに戻されます。

## 10.18 DLT-ROUTE

(Cisco ONS 15454、ONS 15327、ONS 15310-CL、ONS 15310-MA、ONS 15600) Delete Route (DLT-ROUTE) コマンドは、スタティック ルートを削除します。

使用上のガイドライン	なし
カテゴリ	システム
セキュリティ	プロビジョニング
入力形式	DLT-ROUTE:[<TID>]::<CTAG>::<DESPID>;
入力例	DLT-ROUTE:CISCO::123::10.64.72.57;
入力パラメータ	<DESPID> 宛先 IP。DESPID はストリングです。

## 10.19 DLT-ROUTE-GRE

(Cisco ONS 15454、ONS 15327、ONS 15310-CL、ONS 15310-MA、ONS 15600) Delete Route Generic Routing Encapsulation (DLT-ROUTE-GRE) コマンドは、GRE トンネルを削除します。

使用上のガイドライン	なし
カテゴリ	システム
セキュリティ	プロビジョニング
入力形式	DLT-ROUTE-GRE:[<TID>]::<CTAG>::IPADDR=<IPADDR>,IPMASK=<IPMASK>,NSAP=<NSAP>;
入力例	DLT-ROUTE-GRE:CISCO::123::IPADDR=10.64.72.57,IPMASK=255.255.255.0,NSAP=39840F80FFFFFF0000DDDDAA000010CFB4910200;
入力パラメータ	<IPADDR> トンネル エンドポイントの IP アドレス。IPADDR はストリングです。 <IPMASK> トンネル エンドポイントのサブネット マスク。IPMASK はストリングです。 <NSAP> トンネル エンドポイントの NSAP アドレス。NSAP はストリングです。

## 10.20 DLT-TADRMAP

(Cisco ONS 15454、ONS 15327、ONS 15310-CL、ONS 15310-MA、ONS 15600) Delete Target Identifier Address Mapping (DLT-TADRMAP) コマンドは、ゲートウェイ NE に TADRMAP テーブル内のエントリを削除するよう指示します。

**使用上のガイドライン** なし

**カテゴリ** システム

**セキュリティ** プロビジョニング

**入力形式** DLT-TADRMAP:[<TID>]::<CTAG>:::[TIDNAME=<TIDNAME>],[ADDRTYPE=<ADDRTYPE>];

**入力例** DLT-TADRMAP:DXT::CTAG::TIDNAME=ENENODENAME,ADDRTYPE=IPADDR;

<b>入力パラメータ</b>	<TIDNAME>	TADRMAP から削除するエンティティ の TID。TIDNAME はストリングです。
	<ADDRTYPE>	TADRMAP の IP、NSAP または IP-AND-NSAP エントリのいずれを削除するかを指定します。 パラメータ タイプは ADDRTYPE (アドレスが IP アドレスか NSAP アドレスかを指定) です。
	• IP	IP アドレス
	• IP-AND-NSAP	IP および NSAP アドレス
	• NSAP	NSAP アドレス

## 10.21 DLT-TRAPTABLE

(Cisco ONS 15454、ONS 15327、ONS 15310-CL、ONS 15310-MA、ONS 15600) Delete Trap Table (DLT-TRAPTABLE) コマンドは、SNMP (簡易ネットワーク管理プロトコル) トラップ宛先エンタリを削除します。ALL を入力すると、テーブル全体が削除されます。

**使用上のガイドライン** なし

**カテゴリ** システム

**セキュリティ** プロビジョニング

**入力形式** DLT-TRAPTABLE:[<TID>]:<AID>:<CTAG>;

**入力例** DLT-TRAPTABLE::1.2.3.4:1;

**入力パラメータ** <AID> アクセス ID (「[25.16 IPADDR](#)」 [p.25-37] を参照)。トラップ宛先の IP アドレス。数値の IP アドレスだけ入力できます。

## 10.22 DLT-TUNNEL-FIREWALL

(Cisco ONS 15454、ONS 15327、ONS 15310-CL、ONS 15310-MA、ONS 15600) Delete Tunnel Firewall (DLT-TUNNEL-FIREWALL) コマンドは、ファイアウォール トンネルを削除します。

**使用上のガイドライン** なし

**カテゴリ** システム

**セキュリティ** プロビジョニング

**入力形式** DLT-TUNNEL-FIREWALL:[<TID>]::<CTAG>::SRCADDR=<SRCADDR>,  
SRCMASK=<SRCMASK>,DESTADDR=<DESTADDR>,DESTMASK=<DESTMASK>;

**入力例** DLT-TUNNEL-FIREWALL:TID::CTAG::SRCADDR=192.168.100.52,  
SRCMASK=255.255.255.0,DESTADDR=192.168.101.14,DESTMASK=255.255.255.0;

<b>入力パラメータ</b>	<SRCADDR>	送信元 IP アドレス。SRCADDR はストリングです。
	<SRCMASK>	送信元マスク。SRCMASK はストリングです。
	<DESTADDR>	宛先 IP アドレス。DESTADDR はストリングです。
	<DESTMASK>	宛先マスク。DESTMASK はストリングです。



## 10.23 DLT-TUNNEL-PROXY

(Cisco ONS 15454、ONS 15327、ONS 15310-CL、ONS 15310-MA、ONS 15600) Delete Tunnel Proxy (DLT-TUNNEL-PROXY) コマンドは、プロキシ トンネルを削除します。

**使用上のガイドライン** なし

**カテゴリ** システム

**セキュリティ** プロビジョニング

**入力形式** DLT-TUNNEL-PROXY:[<TID>]::<CTAG>::SRCADDR=<SRCADDR>,  
SRCMASK=<SRCMASK>,DESTADDR=<DESTADDR>,DESTMASK=<DESTMASK>;

**入力例** DLT-TUNNEL-PROXY:TID::CTAG::SRCADDR=192.168.100.52,  
SRCMASK=255.255.255.0,DESTADDR=192.168.101.14,DESTMASK=255.255.255.0;

<b>入力パラメータ</b>	<SRCADDR>	送信元 IP アドレス。SRCADDR はストリングです。
	<SRCMASK>	送信元マスク。SRCMASK はストリングです。
	<DESTADDR>	宛先 IP アドレス。DESTADDR はストリングです。
	<DESTMASK>	宛先マスク。DESTMASK はストリングです。

## 10.24 DLT-USER-SECU

(Cisco ONS 15454、ONS 15327、ONS 15310-CL、ONS 15310-MA、ONS 15600) Delete User Security (DLT-USER-SECU) コマンドは、ユーザを削除します。スーパーユーザのみが実行できます。権限レベルについては、「ENT-USER-SECU」コマンドの説明を参照してください。

### 使用上のガイドライン

このコマンドを使用して、現在ログインしているユーザを削除することはできません。

DLT-USER-SECU コマンドでは、<UID> の構文はチェックされません。<UID> がデータベース内に存在する場合、そのユーザが削除されます。

### カテゴリ

セキュリティ

### セキュリティ

スーパーユーザ

### 入力形式

DLT-USER-SECU:[<TID>]:<UID>:<CTAG>;

### 入力例

DLT-USER-SECU:PETALUMA:CISCO15:123;

### 入力パラメータ

<UID> ユーザ ID です。10 文字以内の英数文字で指定します。UID はストリングです。

## 10.25 DLT-VCG

(Cisco ONS 15454、ONS 15310-CL、ONS 15310-MA) Delete Virtual Concatenated Group (DLT-VCG) コマンドは、Virtual Concatenation Group (VCG; 仮想連結グループ) のオブジェクトを削除します。

**使用上のガイドライン** なし

**カテゴリ** VCAT

**セキュリティ** プロビジョニング

**入力形式** DLT-VCG:[<TID>]:<SRC>:<CTAG>:::[CMDMDE=<CMDMDE>][:];

**入力例** DLT-VCG:NODE1:FAC-1-1:1234:::CMDMDE=FRCD;

<b>入力パラメータ</b>	<SRC>	送信元 AID (「 <a href="#">25.15 FACILITY</a> 」 [p.25-34] を参照)。ML シリーズ カードは VFAC AID を使用し、FC_MR-4 カードは FAC AID を使用します。
	<CMDMDE>	パラメータ タイプは コマンド モード (持続状態に関係なく、指定されたコマンドを強制的に実行する) です。NORM モードは、すべてのコマンドに対するデフォルト動作です。ただし、FRCD を指定して、通常であればコマンドが拒否されるステートを強制的に無効にできます。
	• FRCD	通常であればコマンドが拒否されるステートを強制的に無効にできます。
	• NORM	コマンドを通常どおりに実行します。コマンドを失敗させる可能性のある状態は無効にしません。

